

令和5年度 はぐパパ応援育休取得奨励金 取得者の声

令和5年度に奨励金を申請いただいた方の声を集めました

育児休業を取得した理由



第一子で自分も妻も育児に対しての不安があったため、機会があれば2人で長期の育児休業を取得したいと考えていました。その際、南相馬市でこのような取り組みがされていることを知り、取得への大きな後押しとなりました。（20代）

私と妻の親は遠方に住んでおり、実家のサポートを期待しづらい中、2人目の子どもとなったため、上の子と赤ちゃんの世話を妻だけに任せてしまうのはあまりにも負担が大きいと考えました。（30代）

育児休業中大変だったこと



泣き止まない時の寝かしつけと、寝かしつけた後に寢床へ子どもを降ろした際の再覚醒（背中スイッチ）
（30代）

おむつを替えてミルクも飲んで抱っこしている状況でも泣き続けたこと（30代）

私は、育児休業取得前までは、生活のほとんどを仕事して費やす生活であり、育児休業中は正直楽ができると考えておりました。しかし、想像よりも育児は無限にやることもあり苦の毎日でした。その中でも最も強く感じたのは、育児はマニュアル通りに進まないということです。子どもが泣き出してしまった時も、何故泣いているか理解してあげられないことも多々ありましたが、日々を重ねるにつれ少しずつ子どもへの理解が深めることができました。（20代）

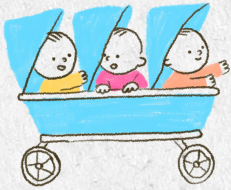


育児休業を取得した感想



第三子で初めて育休を取得しましたが、各種手続きや届出、内祝など含め、今まで産後にやるべきことを、妻に任せきりだったなと感じました。反省の気持ちもあり、妻の負担が軽減できるよう動いたつもりではいますが、何より、日々の成長を見守りながら、楽しんで育児ができました。1か月取得しましたが、もう少し長くとなればよかったなと思いました。（40代）

育児休暇を取得したことで、幼児の面倒を見ることの大変さと、それに伴う自身の精神が憔悴する感覚を味わい、妻への感謝を再確認するとともに、育ててくれた親への一層の感謝を感じることができました。また、日々着実に成長していく我が子の姿を間近で見られたことは、一生忘れることのない思い出へ変わったと共に、我が子への愛情をより一層深めることが出来たと感じています。（30代）



育児休業をこれから取ろうとしている方へメッセージ

育児休業をとることで、育児ができるようになるだけでなく、妻と一緒に苦勞の共有や相談ができるようになり、妻の心身の負担が軽減されます。長期で仕事を休むというハードルはありますが家族との絆を深めたい方には是非取得をおすすめいたします。（30代）

まだまだ男性の育児休業には抵抗があるかもしれませんが、周り（会社等）の協力を得て、積極的に取得してください。子育ては想像以上に大変なことが多いので、夫婦で乗り切ることで、より一層仲が深まると思います。子どもが小さい期間は一生で一度きりです。その期間を大切にしてください。（30代）

▼他、男性育休に関わる情報はこちらから▼

パンフレット・動画
南相馬市で育休を取ろうと
考えているパパへ
詳細はこちら



市内事業所の方へ
魅力ある職場環境づくり
事業補助金
詳細はこちら

